



滋賀県議会議員

た な か ま つ た ろ う

田中松太郎

今月八日に知事はコロナ第八波に入ったとの認識を示されました。この冬はインフルエンザとの同時流行も懸念されています。あらためて早めのワクチン接種や、発熱などの体調不良に備え、新型コロナウイルス抗原定性検査キットや解熱鎮痛薬のご準備をお願いします。



プロフィール ■ 1972年 滋賀県甲賀市生まれ ■ 甲賀市甲賀町 在住 ■ 家族構成：母・妻・長男(大学生)・次男(高校生) ■ 厚生・産業常任委員会、議会運営委員会、地方創生・DX推進対策特別委員会

田中松太郎 事務所 甲賀市水口町北脇436-1 TEL.0748-63-5340/FAX.0748-63-5341

田中松太郎 検索

9月定例会議 一般質問

県政150周年について

本日9月29日は、滋賀県の150周年となる記念すべき日です。

ちょうど1年前の9月29日に私は「滋賀の歴史について考える県政150周年に向けた取り組みについて」という項目で一般質問を行いました。その中で、県民それぞれが滋賀の歴史を振り返る、周年を祝う、200周年に向けた滋賀の未来を考えるなど、様々な機会を提供していく必要があるのではないかと提議をしました。

これに対し知事は、150周年を記念した公文書館の企画展示や学校教育連携事業に取り組みむほか、この節目にどのような取り組みが可能なのか、全庁的に検討するとの答弁をされています。



まず県政150周年のこれまでの取り組みについて。

総合企画部長 ロゴマーク・キヤッチフレーズの募集・決定や



県史編さんの検討のほか、公文書館における県政150周年記念企画展や学校教育連携事業などで、県政150

周年の周知や機運醸成については、広報やキャンペーン等を主体的に実施して「滋賀県政150周年記念事業パートナー」を募集。現在39社のパートナー企業が登録され、ロゴマーク・キヤッチフレーズも活用しながらウェブサイト、広報誌、イベント・行事等による情報発信の他、県政150周年記念割引キャンペーンの実施、県政150周年を記念したノート作成、新聞への協賛広告などに取り組んでいます。

県の予算が少ない中で、多くのパートナー企業・団体に県政150周年にご協力をいただいていることにあらためて感謝申し上げます。

さて滋賀県誕生150周年の日として本日どのようなことが行われるのか。

総合企画部長 本日は、議場の出席者に県政150周年ロゴマーク・キヤッチフレーズのシールの着用をお願いしています。

午後には、県との包括的連携協定締結企業である日本郵便株式会社が作成された滋賀県政150周年記念のオリジナルフレーム切手の披露も含めたセレモニーの実施を予定しています。その他、県で運用する複数のSNS等を活用して、本県が150周年を迎えた旨や県所蔵の歴史ある写真を発信しています。

今後予定されている県政150周年関連事業はどのようなものがあるのか。

総合企画部長 県政150周年の取り組みは、令和5年3月まで実施する予定です。

主なものは、10月の滋賀地酒10,000人乾杯プロジェクト2022にての周知、3回目の県政150周年記念企画展を公文書館で実施する他、12月に県政150周年記念の県庁本館ツアーを予定しています。また、今月末から12月にかけて、滋賀短期大学附属高校の学生が県政150周年特別企画として作成した「LOST IN MY MAPLE LEAF」大津の魅力を紹介した地図の配布も予定しています。



県政150周年記念事業の中心事業として新たな県史編さんをはじめの方針を発表されたが、その目的について。

知事 一つは、本県の歩みや先人の努力と知恵を振り返り、その歴史を学ぶことに寄与すること。二つ目は、ふるさと滋賀への一層の愛着と誇りを育み、未来を考える知的資源として、子どもを含む後世の幅広い世代に歴史を伝えること。三つ目は、県の歴史を伝える貴重な関連資料を収集・保管し、その散逸防止を図ることです。

滋賀県史編さんの方針について。

知事 一つは滋賀県の歴史的な変遷を世界・日本の歴史的な流れの中に位置付けること。

二つ目は、最新の研究成果を広く取り入れるなど、高度な学術研究の水準を持つこと。三つ目は、平易な表現で分かりやすく記述すること。四つ目は、県内外に所在する資料を丹念に調査し、資料やデータを活用すること。五つ目は、県内外に所在する資料を丹念に調査し、資料やデータ収集と保存等に努めること。五つ目は、県民の理解と協力、参加のもとに編さんを進めること。

知事は子どもと読書について

知事 新しい県史は、未来を担う子どもたちにも読んでほしいと願っています。

県史編さん、また、その後にできる内容に影響を及ぼす懸念があるため、慎重に検討する必要があります。そういったことに十分に配慮しながら、できるだけ幅広い形で皆さんの協力や参加が得られるように工夫して努力していきたいと思っています。

滋賀県史の構成について。

知事 年代は、滋賀県が誕生した明治5年から令和4年までの150年間を主たる対象年代とする。近現代史とし、構成は、資料編2巻、通史編4巻、年表のほか、簡略的に叙述した概説、写真・地図等による図録の刊行を考えています。

滋賀県史の完成時期について。

知事 現時点では、令和5年度から令和19年度までの15年間で想定しており、完成するのは令和19年度と考えています。

他府県での県史編さんの予算等について。

知事 例えば高知県では、古代から現代までの全歴史を編さん対象とし、編さん期間は令和3年度から令和22年度まで20年間、事業開始の当初試算として総事業費は約16億円を見積もっています。

本県における県史編さんの予算について。

知事 高知県や他府県の例も参考にしながら、現在精査中です。

県政150周年事業パートナー制度のように、県史編さんも寄付や協賛を募る事や、より多くの県民に県史編さん事業に参加してもらえようとする新たな取り組みの検討も必要かと考えるが、県史編さんにあたっての県民の参加について。

知事 編さんの過程で県民から情報を提供いただいたり、いただいた情報を県民に紹介する場を設けることなどが県民の理解と協力につながり、参加 参加も得られるということだと思いますので、こういった取り組みは大変重要だと思います。

一方こういった分野で寄付や協賛を募ることにしているのは、県史の編さん、また、その後にできる内容に影響を及ぼす懸念があるため、慎重に検討する必要があります。そういったことに十分に配慮しながら、できるだけ幅広い形で皆さんの協力や参加が得られるように工夫して努力していききたいと思います。

秋のポスト全国植樹祭

6月5日に開催された第72回全国植樹祭を記念した「秋のポスト全国植樹祭」が、10月23日に甲賀市甲賀町鹿深夢の森で開催されました。

これは、公益財団法人イオン環境財団、第72回全国植樹祭滋賀県実行委員会、滋賀県、公益財団法人滋賀県緑化推進会、緑の少年団滋賀県連盟が主催したものです。

記念碑除幕式やお手植え苗木のお披露目の後、油日材木育種場へ移動し、約200人で、約2千本の苗木の植樹を行いました。



田中松太郎の日々の活動は SNS等で配信しています！

公式ホームページ、Facebook、Instagram、http://matsutaro.jp/、検索 田中松太郎

11/1 地方創生・DX推進対策特別委員会県外行政調査

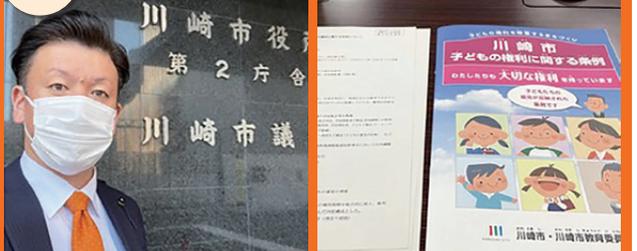


愛知県議会を訪問し、DX推進の取り組み状況やDX人材育成の取り組みについて調査しました。

11/2



浜松・浜名湖ツーリズムビューローを訪問し、浜名湖一周サイクリング「ハマイチ」の取り組み状況について調査しました。



神奈川県の川崎市議会を訪問。川崎市は2001年に全国ではじめて総合的な子どもの権利に関する条例を制定しており、滋賀県における条例策定に向けた取り組みの参考にするため調査を行いました。